

# 教育たんば



表紙：プログラミング教材で試行錯誤する児童たち

(吉見小学校)

令和2年度から、プログラミング教育は新学習指導要領で小学校から必修化されます。丹波市では必修化に先立って試験的にプログラミング教材を導入し、子どもたちが友達と相談し合い、楽しみながら取り組んでいます。

## もくじ

- 子どもたちに豊かな体験を（教育長コラム）…………… 1
- 地域と学校のアイダに立って思うこと（教育委員からひとこと）、  
新中学校の校名が決定しました！…………… 2
- 氷上回廊水分れフィールドミュージアム展示設計…………… 3
- 第2次丹波市教育振興基本計画を策定しました…………… 5
- 丹波市教育支援センターを開設します、小中学校始業日・終業日変更  
のお知らせ、崇広アフタースクールが移転します…………… 6
- 「いつもいっしょ、本といっしょ」、日本のポスター展…………… 7

# 子どもたちに豊かな体験を



教育長 岸田 隆博

「子どもは、家庭で芽を出し、学校で花が咲き、地域で実がなる」と言われます。家庭や地域で、様々な経験や体験、交わる人々とのコミュニケーションによって、豊かな心やそれを実践する態度がはぐくまれます。

体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。つまり、思考や実践の出発点あるいは基盤として、あるいは、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくために体験が必要であるとされています。

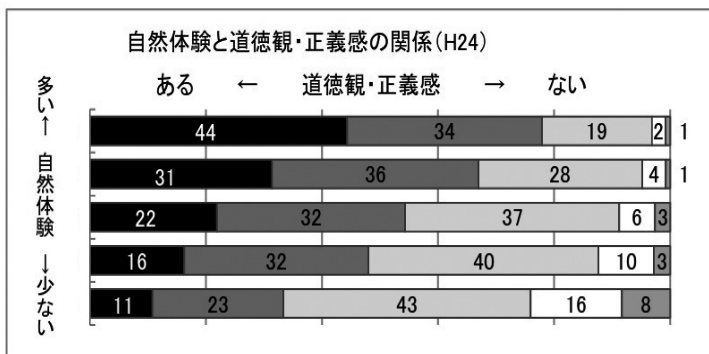
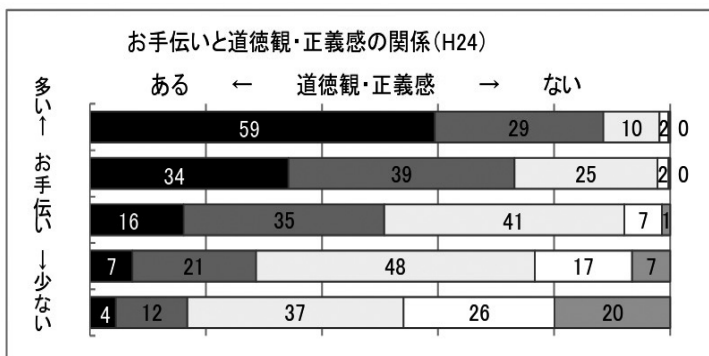
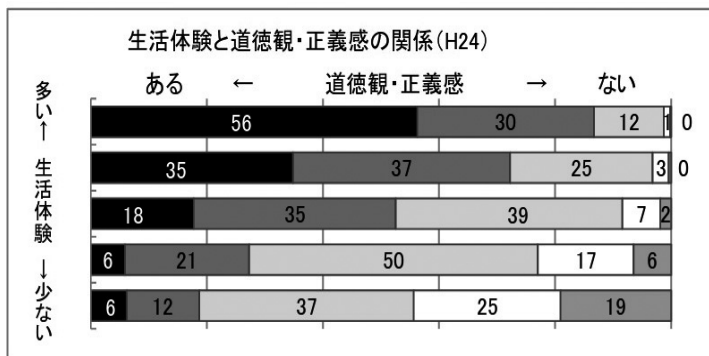
しかし、自然豊かな緑に恵まれた環境の中で生活しながら、丹波市の魅力に気づかない児童生徒もいます。かつては、川遊びに虫取りなどお金をかけなくても、自然や地域のよさにふれ、様々な力をつけた宝物のような体験がたくさんありました。でも今は、「直接体験」が減り、多くの時間をゲームやテレビ等で過ごす子どもが増えていきます。一概に悪いとは言えませんが、東北大の川島隆太教授らによる調査では、「テレビを長時間見ると脳の前頭前野に悪影響が出ることや、ゲームなどで遊んだ後に脳の機能がなかなか回復しない」こともわかっています。

調査データは古いのですが、平成24年度の「青少年の自然体験活動等に関する実態調査結果（国立青少年

教育振興機構）」によると、生活体験が豊富な子ども、お手伝いをする子ども、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が身についている傾向が見受けられました。このような結果から、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の機会を豊かにすることは極めて重要なことだと考えています。

そこで、丹波市教育委員会では、令和2年度から丹波市のフィールドを活かした教育によるふるさと意識の醸成を図る取組を考えています。身体全体で対象に働きかけ、関わっていく体験活動では、「見る（視覚）」「聞く（聴覚）」「味わう（味覚）」「嗅ぐ（嗅覚）」「触れる（触覚）」を働かせ、物事を感じることやえることが大きな意味を持ちます。体験活動は、こうした感覚を総動員し、感性を最大限伸ばす可能性があります。また、地域に

住む人々との交流を経験することで、共存の精神、自他共に大切するということを学んでいきます。体験活動は、子どもたちを様々な課題に直面させます。直面した子どもたちは、「おや、なぜ、どうして」という問題意識を持ち、日頃学んだことを生かし、課題解決を図ろうとします。もちろん、その過程には、当然挫折や失敗がつきものですが、試行錯誤を繰り返しながら解決を図ろうとします。ここに大きな学びのチャンスがあります。ただ、こうした体験活動は、学校教育においても大切にしなければなりません。家庭や地域社会での活動を通じてなされることが本来自然な姿であり、かつ効果的であると考えています。保護者や教職員以外の人から指導を受けたり、様々なことを教えるもらったりする機会があれば、はっと気付かされる



「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」平成24年度調査報告書（概要）より引用



ような事態とも遭遇することもあります。大人が率先していろいろな活動に取り組み、「モデルとしての大人を子どもに示すことができれば、その背中を見て何か考え、動き出す子どももいると思います。」

繰り返しになりますが、丹波市には豊かな自然があります。環境があります。もちろん、青垣いきものふれあいの里、兵庫県森林動物研究センター、丹波布伝承館、植野記念美術館、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムなどの施設もたくさんあります。また、新たな学びの場として、現在、令和3年3月のオープンに向け、氷上回廊水分けフィールドミュージアムの整備も進めています。

子どもたちは、他者、社会、自然・環境の中での体験活動を通して、自分と向き合い、他者に共感することや社会の一員であることを実感することにより、思いやりの心や規範意識を学んでいきます。また、自然の偉大さや美しさに出会ったり、文化・芸術に触れたり、広く物事への関心を高め、問題を発見したり、困難に挑戦し、他者との信頼関係を築いて共に物事を進めたりする喜びや充実感を体得することは、社会性や豊かな人間性、基礎的な体力や心身の健康、論理的思考力の基礎を形成するものです。

このように体験活動は、子どもの新しい可能性を切り拓きます。普段はあまり時間が無くて、家族との関わりが持てないことも多いと思いますが、子どもたちには豊かな体験をさせてほしいと願っています。子どもと一緒に丹波市の豊かな自然を満喫してほしいと思います。

教育長コラム

【教育長室から】発信中！



## 地域と学校のアイダに立って思うこと

教育委員 出町 慎



教育委員 出町 慎

日頃は建築の設計やデザインの仕事をしていますが、青垣町佐治にある関西大学佐治スタジオという大学の地域交流活動拠点の研究者としてまちづくり活動にも取り組んでいます。

数年前のある日、同スタジオに青垣中学校の先生が訪ねてこられました。「パソコンでイラストデザインをしたいという生徒がいて、学校にはデザインソフトも教える教師もいないのでこちらに相談に来ました」ということで、その生徒H君と出会い、定期的にパソコン勉強会を行うことになりました。当時、同中学校の生徒会と一緒に地域の魅力発掘調査を行っていたので、H君がパソコンでMAPの制作を担当し、とても素敵なMAPを作りあげてくれました。この縁から、H君とは今も交流が続いており、デザインの仕事を頼んだり、一緒にまちづくり活動に取り組んだりしています。小さな事例ですが、地域が学校に関わることで、子どもたちの学びの場を広げる可能性があることを実感しました。

現在、市教育委員会では「地域と共にある学校づくり」の実践のため、市内すべての小学校にコミュニティ・スクールを導入しています。地域と学校が協働し、「子どもたちの学びの場」を作っていく関係作り、仕組み作りが市内各所で展開されることに期待しつつ、自分自身も教育委員として地域と学校のアイダに立ち、一緒になって取り組んでいきたいと思えます。

## 新中学校の校名が決定しました！

第9回山南地域市立中学校統合準備委員会を1月23日(木)午後7時30分から、山南住民センターで開催し、「校名」の最終選考を行いました。最終選考の結果、新中学校の校名(案)は『山南中学校』になり、2月21日の定例教育委員会においても校名(案)が承認されました。今後は、丹波市立学校設置条例の改正が議決され正式に校名が決定となります。

ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。

【最終選考の結果】統合準備委員会委員28名(当日の出席委員)

山南中学校：19票、やまなみ中学校：4票、山和中学校：2票、さんなん中学校：2票、山南やまなみ中学校：1票



※展示内容及びパース図等はイメージですので変更になる場合があります。



### 氷上回廊の成り立ちを奇跡として数値化して説明

#### 4 氷上回廊「キセキ」

ポイント

■氷上回廊の成り立ちがどれだけ「キセキ」なのか詳しい説明を資料と模型で説明。どれだけ「キセキ」なのかを数値化する。



難解な河川争奪の原理を模型を使ってわかりやすく解説



氷上盆地の断面構造を背景に地質サンプルや標本により直感的な理解を促す

体験性の高い仕掛けを随所に展開。楽しみながら氷上回廊のキセキ・不思議を学ぶ。

#### 5 生き物ウォール

### 実物の臨場感で生き物の生態や力強さを体感

ポイント

■自由に配置を替えて展示物をレイアウトでき可変性に対応するウォール展示。  
■ミナミトミヨの3Dスキャン模型、珍しい生き物の展示。



ルーペなどで生き物の細部まで見れる仕組み  
空中散歩の裏側。ミナミトミヨの3Dスキャン模型他 珍しい生き物を展示



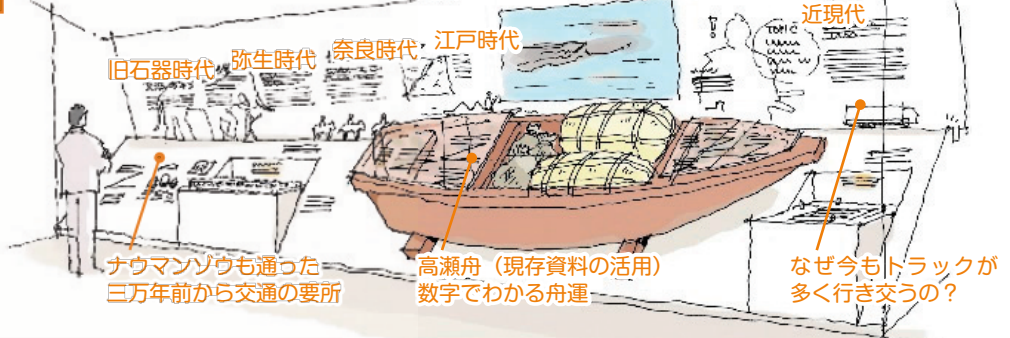
ワークショップ等で作った標本も展示できる

#### 6 氷上回廊の歴史

### 人やモノ・文化が交流した氷上回廊。その歴史を辿る。

ポイント

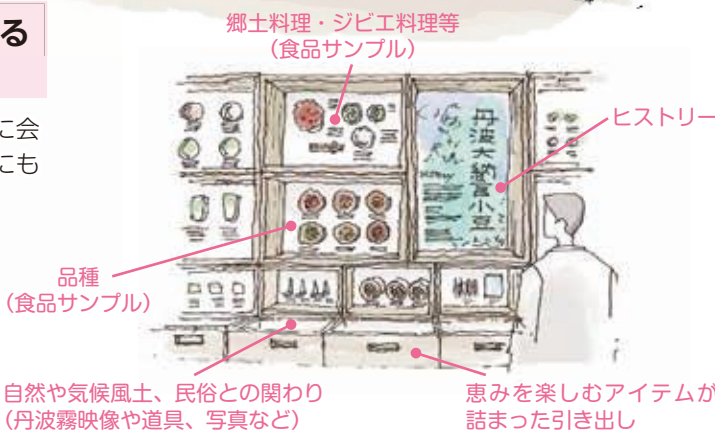
■氷上回廊の文化交流を辿る。旧石器時代から現代の物流までを一貫して展示する。  
■舟運と陸運とのコストを比較し、低地帯ルートの特長を数値化する。



### 独特の自然や風土が紡ぐ丹波の多様なめぐみを紹介する仮想店舗「丹波みらい堂」

ポイント

■丹波三宝をはじめとする農産物や工芸品など丹波のめぐみが一堂に会したショップ風の展示。お店屋さんごっこなどのワークショップにも活用できる。キッズニア的な演出と要素を付加。





## 展示の基本計画

### 展示の体験がフィールドへと誘い、フィールドでの体験が展示で深まる博物館

#### ●地域の森羅万象を扱い、野外フィールドを活かす小さな総合博物館

地形のしくみから、自然環境、歴史と文化、現代課題と地域の未来構想までを、文理融合による一貫したストーリー。地形と生物、生物と文化、文化と農をはじめとする営みなど、分野を横断して、現在の姿とあるべき姿を考える場をつくる。

#### ●新しい展示手法の導入

ミナミトミヨの実物3Dスキャンによる拡大模型、地形のしくみをシュミレーションできるカーゴ型ツールキット、ドローン撮影した映像を空中遊泳しているような没入感のある映像設備。

#### ●さわれる・体験できる展示、参加できる展示の仕組みを導入

実際の標本を間近で観察できて、触れる標本を多数用意し、それらを使って対話型の学習や理解が深まるキットを用意。セミナーやイベントの機会を活かして、展示物をみんなでつくって誰もが発信者になれる展示。

### 氷上回廊や丹波の魅力を知るきっかけづくりとなるスペース

ポイント

- 展示室へと誘導する氷上回廊の概念を映像や地形模型を使って、案内する。
- 展示を深めるカーゴ型ツールキットで氷上回廊に興味を持ち、基礎知識を習得する。

1

水分れ  
ロビー



プロジェクションマッピング



水分れ体験模型

### 氷上回廊の空中散歩映像で、魅力あふれる丹波のフィールドへ誘う

ポイント

- ドローンの画像をリアルに体験できる空中散歩映像。画面への映像×床面画像の相乗効果で、没入感・浮遊感のある映像体験を実現します。

2

氷上回廊  
空中散歩



氷上回廊ガイダンス：  
地形・自然・歴史・文化を浮遊感と没入感のある映像で紹介

### 世界・日本の地形を体感的に学べる「凸凹地形体験」 日本の尾根の構造や氷上回廊の位置など地形の理解を促進

ポイント

- 自由に地形模型に触れることで、氷上回廊や日本の水分れを構造的に理解、発見できる。  
世界の水分れも紹介します。

3

地球は  
凸凹



地球は凸凹

地球儀上に示された水分れスポットを触ることで地形の高低差を体感し、地形の面白さを発見！



凸凹体験

自由に触れてもらい、分水界の概念を凸凹地形を入り口に理解する

7

丹波の  
めぐみ

# 「第2次丹波市教育振興基本計画」を策定しました

丹波市教育振興基本計画は、教育基本法第17条第2項に規定された、丹波市の教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

これまでの取組を振り返り、様々な教育動向への対応や保護者・地域の負託に応える教育の充実に向けて、令和2年度から令和6年度の5年間における施策の方向性を明らかにするとともに、これらに基づく教育施策を総合的・体系的に推進していくことを目的として策定しました。

『ふるさとを愛しこころ豊かでたくましい人づくり』を基本理念とし、丹波市で生まれ育った子どもたちが将来どこに住んでいてもどこで活躍しても「ふるさと」をこよなく愛し、夢や希望に向かって一人ひとりがひかり輝き、こころ豊かにたくましく生き抜く子どもをはぐくむ教育施策を推進します。

## 基本理念

## ふるさとを愛しこころ豊かでたくましい人づくり

丹波市で生まれ育った子どもたちが、将来どこに住んでいても、どこで活躍していても「ふるさと」をこよなく愛し、夢や希望に向かって一人ひとりがひかり輝き、こころ豊かにたくましく生き抜く子どもをはぐくむための教育施策を推進します。

## 基本目標

## 地域に誇りを持ち 自分たちの未来を創る 人づくり ～ 一人ひとりが未来の創り手に ～

「学び続ける力」「新しい価値を創造する力」「社会で自立できる力」の3つの資質・能力を育成し、子どもたちが、「わたしにもできる わたしだからできる」と、夢や希望を抱く子どもをはぐくみます。

### 基本方針

#### ◆生きる力をはぐくむ学校教育の推進

学校と地域・保護者が子どもに関わる当事者として、次世代を生き抜く子どもたちに必要な力をはぐくんでいくことが求められており、これまでの「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へと転換し、地域に誇りを持ち自分たちの未来を創る人づくりを推進します。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、プログラミング的思考の育成、外国語に触れる機会の充実を図っていきます。ふるさとの「ひと」「もの」「こと」にふれる機会の充実や、特別な支援を要する子どもたちが切れ目なく一貫した相談・支援が受けられるなどの一人ひとりのニーズに応じた教育を推進します。

市内すべての地域で認定こども園による教育・保育を実施していく上で、高い専門性と指導力のある保育士・保育教諭を育成するとともに、小学校との円滑な接続を図っていきます。

#### ◆生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

多くの市民が学びに参加できるきっかけづくり、NPO法人、市民活動団体など多様な主体との連携・協働、まちづくりや「地域とともにある学校づくり」を主導できる人材を育成します。

家庭教育はすべての教育の出発点であることを踏まえ、地域の多様な主体が連携・協力して家庭・地域の教育力の向上を図ります。美術館、文化ホール事業等を通じて文化芸術活動の充実に取り組みます。

市民の身近な「情報拠点」として、多様なサービスを提供し市民が集い、人の交流により地域づくりに貢献ができる場所としての図書館をめざします。

#### ◆学びを支える環境の整備

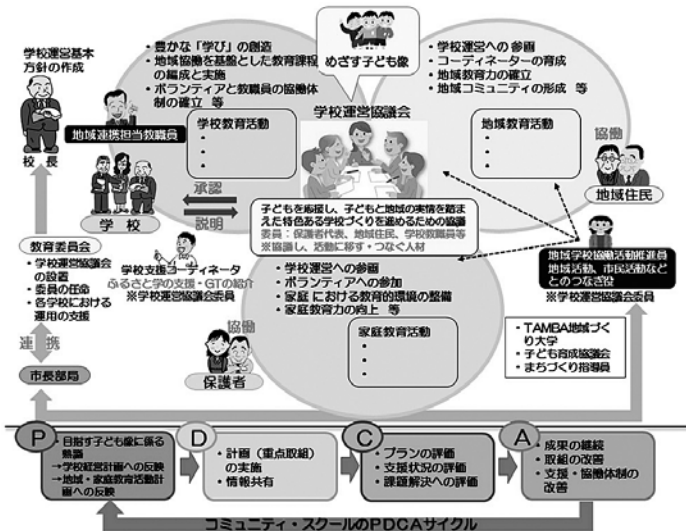
「コミュニティ・スクール」を全小学校に導入し、熟議や協働を通して、学校・家庭・地域それぞれが、子どもの成長に直接関わる当事者としての自覚と責任を持ち、子どもをはぐくむ教育を展開します。

丹波市学校給食運営基本計画（第2次）に沿って、安全・安心な学校給食の提供に努めるとともに、将来を見据えた給食施設のあり方を検討します。また、地場農産物を利用した食育推進に努め、安全で安心した地場農産物の活用に取り組みます。

教師力スキルアップセミナーや様々な教育課題に対応するため教育研究室に部会を設置するなど計画的に取組を推進します。

教育委員会の各施策について自己点検・評価を行い、PDCAサイクルによる効率的な教育行政を推進します。

ホームページ、広報紙、フェイスブック等により、タイムリーで分かりやすい情報発信を行います。





不登校やいじめ、子育ての悩みや児童生徒の指導に関すること等、教育に関する様々な困り事や悩みに対する相談機能を同じ建物内に集約し、丹波市教育支援センター「レインボー」として4月からスタートします。教育支援センター内はもちろん、必要に応じて学校や各関係機関と連携しながら、相談体制の充実を図ります。

主な相談機能

◆レインボー教室（丹波市適応指導教室）

学校に行きにくい、または行けない児童生徒を対象に「レインボー教室」を開設しています。教室では、学習活動を中心に、読書・パソコン・スポーツ・散策・料理・制作などの楽しい活動も計画しています。それらの活動を通して生活を改善し、心や体に元気を取り戻します。

◆教育相談室

学校生活や家庭生活で困ったことがある児童生徒、子育てや学校生活に不安や心配を感じておられる保護者や家族、児童生徒の指導に悩みを持っておられる学校関係者の相談に応じます。

◆学校いじめゼロ支援チーム

児童生徒やその家族、学校関係者からのいじめに関する相談に応じます。また、いじめの未然防止及び早期対応、早期解決に向け、学校への多面的な支援を行います。

所在地及び連絡先

所在地：丹波市春日町黒井1519番地1  
 丹波市教育支援センター「レインボー」内  
 レインボー教室 TEL 74-0710  
 教育相談室 TEL 74-3220  
 学校いじめゼロ支援チーム TEL 74-0711

まずは気軽にお電話ください。



小・中学校における各学期の始業日・終業日の変更のお知らせ

	令和2年度（変更後）		令和元年度（変更前）	
	始業日	終業日	始業日	終業日
1学期	4月7日	7月21日	4月6日	7月20日
2学期	8月26日	12月25日	9月1日	12月24日
3学期	変更なし		1月7日	3月24日

※2学期の始業日は、8月末に4日間の授業日を設けるため、年度によって変更します

新しい学習指導要領が令和2年度より小学校で、令和3年度より中学校で本格実施となります。それに伴う小学校での外国語の授業時数の増加や、小・中学校ともに子どもと向き合いながら多様化する課題に組織的に対応できる環境を整えるため、4月より市内小・中学校の長期休業日の期間を変更します。

崇広アフタースクールが移転します

崇広小学校の子どもが利用している崇広アフタースクールは、木の根センターで実施していましたが、令和2年4月から旧崇広幼稚園舎に移転します。

今後は小学校に隣接したアフタースクールで、子どもたちの安全・安心な放課後の見守りを行います。

保護者の皆様には、送迎先や連絡先などが変わり、ご不便をおかけしますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

【新しい所在地と連絡先】

丹波市柏原町柏原683番地 TEL・FAX 72-0532





# 『いつもいっしょ、本といっしょ』

～丹波市立図書館からのお知らせ～



## ○大きなおはなし会

丹波市の図書館を拠点に活動されている読み聞かせグループが一堂に会します。春のひととき、親子、お友達と一緒におはなしの世界で楽しみませんか？

- とき・・・令和2年4月19日（日）
- 場所・・・丹波市立中央図書館 視聴覚室



## ○読書マイスター認定者のおすすめ本のポップ展示

市内各小中学校で『読書マイスター』に認定された児童・生徒の「みんなにすすめたい1冊の本」の紹介文を展示します。

★令和元年10月1日～12月31日までの3ヶ月間に、小学校低学年50冊以上、高学年25冊以上、中学生10冊以上の本を読んだ児童生徒に『読書マイスター認定証』が、教育委員会から交付されます。

★子どもたちが紹介する本は、より身近な本として大変人気が高く、子ども読書推進の一助となっています。是非、ご覧ください。

- 期間・・・令和2年3月10日（火）～5月10日（日）
- 場所・・・市内の各図書館



## ○子ども司書養成講座

月1回の7回シリーズの人気講座で、図書館の役割や本の成り立ち、また、本の分類や整理について学んだり、レファレンス（調査相談）やおすすめ本のポップ作りを実際に体験した後に、カウンター体験や読み聞かせを行い、受講者全員に【子ども司書認定証】を交付しました。

これからも読書活動のリーダーとして活躍してくれることを期待しています。



これからも、市民の皆様との協働による様々な図書館事業を展開し、本や人との新たな出会いの場や本を楽しむきっかけづくりに取り組んでいきます。

お問い合わせ先：中央図書館 TEL.82-7100

## 日本のポスター展 ー京都工芸繊維大学 美術工芸資料館コレクションー



作者不明（1930年代）  
「三福家庭張物湯のし器」



杉浦非水（1927年）  
「東洋唯一の地下鉄道／東京地下鉄道株式会社」



小磯良平（1933年）  
「第一回神戸みなとの祭」

京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵し、前身の京都高等工芸学校の時代から現在まで、デザイン・意匠研究の一環として収集した世界のポスターの中から、日本の商用・広報用のポスター作品を取り上げ、ポスターのもつ強烈な魅力に迫ります。

伊藤深水、藤田嗣治、小磯良平など近代日本画・西洋画壇の重鎮たちが原画を描いたものから、戦後、亀倉雄策が制作した東京オリンピックのポスターなど、明治期の美人画から、大正モダン、戦時広報、そして第二次大戦後の高度経済成長期に至るそれぞれの時代を彩り、かつ象徴する作品約130点を紹介し、近代日本の歴史と世相の遷り変りをポスターという作品から辿ります。

会 期：令和2年4月25日（土）～6月14日（日）  
開館時間：午前10時～午後5時（ただし入館は午後4時30分まで）  
休 館 日：月曜日（5月4日（月祝）は開館）  
入 館 料：一般600円 大学・高校生300円 小中学生150円

ココロンカード利用可・  
20名以上団体割引